

平成 23 年度 第 2 回まちづくり評価委員会 会議概要

■日 時：平成 23 年 8 月 30 日（火）13:30～15:30

■場 所：消防局庁舎 3 階第 2 会議室

■出席者：（委員）

石原委員（代理 佐々木氏）、大武委員、小畑委員、川名委員、木村委員、
永田委員、西原委員、細野委員長、松本副委員長、森川委員（50 音順）
（事務局）

松谷政策推進部長、松田政策担当課長、宮川主査、檜山主査、小川

■傍聴者：なし

■資 料

《席上配布資料》

- ・平成 23 年度第 2 回まちづくり評価委員会 次第
- ・第 1 回会議で資料の提出が求められた項目に関する資料

《会議資料》※配布済

- ・資料 1 まちづくり評価委員会の概要
- ・資料 2 横須賀市基本計画重点プログラム関連資料
- ・資料 3 （修正）基本計画重点プログラム市民アンケート報告書（速報版）
- ・資料 4 基本計画重点プロジェクトの目標と重点事業の実施状況
- ・参考資料 横須賀市まちづくり評価委員会報告書（平成 21 年度）
- ・横須賀市基本計画（2011～2021）
- ・横須賀市実施計画平成 23 年度（2011 年度）～平成 25 年度（2013 年度）

■議事内容

1. 第 1 回会議で資料の提出が求められた項目について
2. プログラムごとの検討
 - （1）重点プログラム 3 『環境を守るプログラム』
～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～
 - （2）重点プログラム 4 『にぎわいを生むプログラム』
～地域経済の活性化と雇用の創出・
集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

(開 会) 13 : 30

- ・ 松田政策担当課長の司会のもと、資料確認を行った。

1 第 1 回会議で資料の提出が求められた項目について

- ・ 事務局（宮川主査）が前回会議で提出を求められた資料について説明を行った。

(細野委員長)

- ・ ただいまの事務局の説明に対して、何かご質問はありますでしょうか。

(松本副委員長)

- ・ 資料 5 ページのところでファーストマイホーム制度の影響とありますが、それについて説明していただいてよろしいですか。

(事務局：宮川主査)

— 説明

(細野委員長)

- ・ どれくらいの人が利用しているのですか。

(川名委員)

- ・ ファーストマイホームに関しては、資料 4 の 29 ページのところに平成 22 年度には 1164 件の利用があったと書かれていますね。そこにスイートホームというのがありますが、これはどういったものなのですか。

(事務局：宮川主査)

- ・ 概要を申し上げますと、結婚を機に賃貸住宅を借りる方に、奨励金として家賃の一カ月分（8 万円を上限）をお渡しするという制度でございます。

(細野委員長)

- ・ 転入の手続きするときに、制度を知っているかどうかのアンケートを採ったりしているのですか。

(事務局：宮川主査)

- ・ アンケートは採っています。全体として制度利用者の市内：市外の割合は 7 : 3 というところございまして、市外からの転入者の割合は全体の 3 割といったところでございます。

(細野委員長)

- ・ 専業主婦率と家計所得との関連はどうなっていますか。恐らく家計所得が高ければ専業主婦率も高いと思うのですが。

(宮川主査)

- ・ 参考までに 23 区の状況を調べてみたところ、例えば港区を見てみますと、15 歳から 49 歳の専業主婦率は 55.7%とかなり高い値となっておりまして、世田谷区でも 50%を超えています。
- ・ 一方で山形県などの農村地域を調べてみますと、22.7%となっています。一次産業が中心ですと、夫婦で一緒に働いているという状況が考えられ、専業主婦率も低くなっています。
- ・ 都内でも特別区の中では港区などの所得が高い層が住んでいると思われるところでは専業主婦率は高くなる傾向にあります。ただ、一概に言えないところもあって、働ける環境が多くある場所かどうかにも左右されていると思われます。

2 プログラムごとの検討

(細野委員長)

- ・ それでは本日の協議事項に移りたいと思います。本日は予定といたしましては、重点プログラム3「環境を守るプログラム」、4「にぎわいを生むプログラム」、5「地域力を育むプログラム」となっています。議論の盛り上がりによっては重点プログラム3と4のみで終わるかもしれません。短い時間での検討になりますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

(1) 重点プログラム3 『環境を守るプログラム』

～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

(細野委員長)

- ・ それでは、『環境を守るプログラム』について、前回同様アンケート結果を踏まえながら議論をしたいと思いますので、事務局に説明を求めたいと思います。

(事務局：宮川主査)

ー 説明

(細野委員長)

- ・ 環境に関する評価は高いということで、政策的な課題は少ないのかもしれませんが、何らかの課題はあると思います。
- ・ 例えば、環境教育などはまちに対する愛着を持つにあたっても重要だと思うのですが小畑委員はいかがでしょうか。横須賀の環境は素晴らしいとか、こういった生き物がいるといった教育はなさっているのでしょうか。

(小畑委員)

- ・ 生き物については昔、教材を三崎までメダカを取りに行くなどしていたのですが、今はそうした教材は購入しています。
- ・ ただ、ごみの分別に関しては、教員から厳しく指導をしているところで、3分別に分けるといった教育をこどもの頃からかなり徹底して行っています。
- ・ また、私どもの学校は猿島に近いので、横須賀の自然環境を学ぶために遠足は必ず4年生は猿島に行きます。今年は震災の影響でいけませんでした、毎年猿島に行って「猿島学習」をしているところです。
- ・ 産業との兼ね合いでいいますと横須賀は非常に海が豊かですので、東部漁協のご協力を得て、塩でタコもみをするという体験をしています。そこを出発点として、漁協の方から海のことを学ぶということをしています。

(細野委員長)

- ・ 佐々木さんはいかがでしょう。

(石原委員代理)

- ・ 私は京急電鉄で広報を担当していますが、まさにこのプログラム3で上がっているようなことに関しても、京急電鉄の取り組みが中心にはなりますが、PRを行っているところです。
- ・ 当社は「沿線」という見方をしますが、品川から、川崎、横浜を経由して、横須賀、三浦とある中で、一時間強で横須賀・三浦まで来られる。こんなに近いところにこれだけ豊かな自然があるということをもっと知ってもらいたいというのが我々のスタンスです。
- ・ 例えば、当社では「近、いい、三浦半島」というキャッチフレーズでポスターを作っていますが、沿線だけではなくて、都営地下鉄や、西武鉄道といった違う沿線の鉄道会社とお互いポスターを出し合っ、なかなか行く機会がない人たちにもポスターを見てもらって、「近いところにもこんなにいいところがあるんだ」ということを知ってもらいたいと思っています。
- ・ 直近でいうと活断層や海に近いことから津波といったことから三浦半島全体に若干マイナスのイメージがあるのは事実ですが、海が好きな人もいますので、そういった方たちに対してPRして行きたいと思っています。
- ・ また環境に関しては、小網代の森などに関して神奈川県に協力しながら保護していくことも行っております。
- ・ 三浦市とお話をさせていただく中で、海のない県から修学旅行の学生を連れてくるということがありますが、海があるというのはPRになりますので、同じところから横須賀の魅力をPR出来ればと思っています。

(細野委員長)

- ・ 他に何かありますか。

(松本副委員長)

- ・ 資料4の20ページに「エコツアー推進事業」というのがありますが、それはかなり現実的に、リアリティを持って進められているのでしょうか。新しい事業なので、かなり力を入れているのかなと思っているのですが。

(事務局：宮川主査)

- ・ 「エコツアー推進事業」は、平成 23 年度の新規事業として、今年度に関しては場所の選定をして、翌年度にガイドマップなどを作成し、翌々年度からツアーを実施して行きます。「エコツアー協議会」という協議会を作り、地域や、企業、旅行会社とタイアップして、ツアーを企画していくという事業になっております。

(松本副委員長)

- ・ こういったことは民間が主体で進めて行くべきなのかなと思いました。財政が潤沢であればいいのですが、そうではないときに市でやる事業として疑問を持ちました。
- ・ 民間で出来そうなことを市がお金をかけてやっていくとなると、どこまでやるのかという見極めをしていかないと、何でも手を出していくことになると感じました。

(細野委員長)

- ・ このエコツアーは例えばアグリツーリズムやグリーンツーリズム（共に都市部からの、農村部との交流を目的とした旅行）のように「にぎわいを生む」要素も入っているのでしょうか。

(事務局：宮川主査)

- ・ そういった要素もございますが、一義的には環境を P R する事業ということになっております。

(細野委員長)

- ・ このアンケートを見て、開発と環境汚染のトレードオフということを考えましたが、皆さんはどう考えましたか。

(永田委員)

- ・ 資料 3 の 47 ページですが、追浜地域は工場がたくさんありますので、環境と調和した発展というのは実感にくいというのはあると思います。同じ市の中でも住んでいる場所によって、実感が異なるということがあるのではないかと思います。

(事務局：宮川主査)

- ・ 追浜では新たに大規模なマンション開発が進んでおりまして、山を切り崩して開発を進めております。回答理由でも「開発が進んでいる」といったものがありましたので、追浜では、そういった傾向が表れたのかなと思っております。

(細野委員長)

- ・ 人口も欲しいし、緑も欲しいし、というのはトレードオフなんですけど、高層化して地面の緑被率は高くするということを考えて行かなければならないのかもしれないですね。

(木村委員)

- ・ 横須賀は縦長で、山が多いですね。ですから、海もあるけれども、山がある。そして、山を開発していかなければ住むところができないということがあるというジレンマがあると思います。
- ・ そんな中で、永田委員の言ったように追浜は工業地区で、西の方は自然があるというように横須賀はバランスを取って行かなければならないのかなと思います。
- ・ 出来るところは住宅を増やしていただいて、県外からの転入者を増やすという努力も大事ですし、開発をしていく中で自然を残すというよりは自然を創り出すという視点が重要なのではないかなと思います。

(川名委員)

- ・ 昨年緑の委員会に参加させていただいた際も感じたのですが、保全と開発というのは一番の課題でして、人口流入のためには山を崩していかななくてはならない。そうするとせっかくの横須賀らしさが失われてしまう。
- ・ 日本全国中どこでも人口の流入ということを言っているんですが、そうすると限られた人口を取り合うゼロサムゲームのようになってしまいます。
- ・ 視点を変えて、人口流入を生み出したマンションは 50 年後にどうなってしまうかということを考えると、新潟県の湯沢町のようにならないとも限りません。
- ・ そうなってしまうと、せっかく人口の流入があったのに 50 年後には次に売るものがないということになりかねません。人口だけを考えてしまうと他と同じ土俵になってしまうので、新しい土俵で考えて行かなければならないと思います。
- ・ マンション開発だけに囚われず、例えば谷戸の物件をただで貸してあげて人口流入を促す、他にも空き店舗を年間の固定資産税並みの賃料で貸すなど、視点を転換して行かなければならないかと思っています。

(細野委員長)

- ・ 人口流入も欲しいし、安全・安心も重要ですね。他に何かございますか。

(小畑委員)

- ・ ただいまの 47 ページの「環境と調和した潤いのあるまち」で追浜の実感が低いことについてです。学校の教育の立場で考えると、本庁には「海辺釣り公園」があつて、久里浜には「花の国」やその近辺にグラウンドがありますが、追浜には大人も行けて、子どもも行けるという「海辺釣り公園」のようなところがないんですね。
- ・ ないのは当然で、谷戸のまちですから、斜面に家を建てたりしています。今日たまたま神奈川新聞を見ていたら、追浜行政センターの前館長が国語の歴史を解説しています。浦郷小学校の近くの梅田トンネルの解説しているんですけども、新たに流入してきた人たち向けに、あの近辺で歴史マップのようなものを作って渡せば大人も行けるし、子どもも行けると感じました。
- ・ また 56 ページの「にぎわいと活力に満ちたまち」というのがございますね。追浜地域を見てみると、それほどマイナスが高くありません。衣笠の方が返っ

てマイナスが高い。以前と比べてとなると、追浜は 0.1 なのですね。関東自動車が無くなってしまったことを考えると、追浜の人は工場以外のところで段々増えてきて、活気を感じているのかなと感じました。

(細野委員長)

- ・ ありがとうございます。そういった開発の種地があったら、にぎわいを生むかもしれませんね。

(永田委員)

- ・ 先ほど、住宅の開発の話がありましたが、横須賀市も縦長で、場所によってはすでに自然のない地域もありますし、まだまだ残っている地域と言うものもあります。
- ・ そうした現状を考えますと、新しく造成する地域と、開発せずに残していく地域と分けて開発していく必要があると思います。例えば追浜地域だと既に自然が残っていないところがありますので、そうしたところで高層マンションを建てるなどして人を呼び込む中心として、売り込んでいくところを作っていくということです。
- ・ そして、南の方で自然が残っている地域では、新しく住宅を造成した地域から遊びに行ける地域として残しておくというように、地域の現状に応じて開発の姿勢を変えていくべきなのかなと思いました。
- ・ また、先ほど修学旅行の話がありましたが、私の友人も小学生のときに修学旅行で関東地方に来た際に、横須賀で地引網の体験をしたそうなのですが、例えば横須賀で福島に修学旅行にいくとしたら、交換でどこか一校福島の学校に来てもらうというような取り組みで、少しずつ、県外・市外から人に来てもらうというやり方もあるのかなと思います。

(細野委員長)

- ・ 他にいかがですか。

(森川委員)

- ・ 若者が環境教育を受けることに関してですが、今回のアンケートを見まして、アンケートの 49 ページにあります「地球環境に貢献するまち」の部分で小畑委員が話していた環境教育や、「エコツアー推進事業」などに市として取り組んでいるにも関わらず、若者の環境教育に関するプラスの意見と言うのは一つも出ていないというのが気になりました。
- ・ 今回のアンケートでは 29 歳以下が答えている割合というのが非常に少ないので、学生自身の実感がアンケートに反映されるというよりは、こどもたちを見ている親の世代が自分のこどもが地域から教育を受けているという実感が欠けており、反映されていなかったのだと思います。
- ・ 環境教育に関しては、市だけが頑張るというのではなく、学校教育や民間の活動と一体となった教育によって、市民の実感が上がって行くのだと思います。

(細野委員長)

- ・ 大武委員はいかがですか。

(大武委員)

- ・ 自然と調和した環境、特に東京湾側の平成町から追浜にいたるまでの人工的に海に対応した自然との調和、横須賀は緑もありますが、航空写真ではほとんど住宅です。要するにのり地をミニ開発してその後処理としてがけ崩れなどの対策をしています。西の方は交通の不便さとの関連か、緑は多いのですが、武山にしても大楠山にしても、木立の中を散策するような自然との触れ合える所は逆に少ないという印象があります。
- ・ 大型のマンションが出来ているというのは、山を削ることによって発展を止めてしまうという別の印象もあります。

(小畑委員)

- ・ 学校教育との関連で話をさせていただきます。娘婿が東京に住んでいましたが、今度こちらの方に引っ越してきました。ごみの分別をさせると全くバラバラ、今までやっていなかったと。娘が一から教えたと言っていました。問題は私どもの学校では環境教育をやっていますが、やりなさいやりなさいと頭から教えるのではなく、道徳教育とリンクさせなくてはなりません。
- ・ 公德心とか規則を守るとかそういった部分をリンクさせながら環境教育をさせなくてはなりません。
- ・ 私共の小学校は7割が平成町の埋め立て地に建てられたマンションから通って来ておりますが、やはり、海の近くという海辺釣り公園がある釣りに行ける、自転車で遊びに行けるという非常にいい環境にいるということを子ども自身が実感しているということを感じております。そういった子どもたちの心を環境教育に繋げていくということをしていきたいと思っています。

(細野委員長)

- ・ 西原委員はいかがですか。

(西原委員)

- ・ 環境というのは大きく言えば自然環境・生活環境があり、それが地球環境に結びついている訳ですね。私は特に生活環境の面でクリーンよこすか市民の会の会長を30年以上している訳ですが、30何年やっていて綺麗かと言われればなかなか綺麗にならないのです。前にも申し上げたかもしれませんが、行政上の問題もあるんです。千代田区・船橋市のようにポイ捨ての過料がないんですね。そういったところは2,000円の過料をポイ捨てに対して課しているのですが、私も2、3度そういった地域に行きましたが、確かに綺麗なんですね。タバコの吸い殻も落ちていない。横須賀はいくら運動してもまだまだ落ちている。
- ・ 横須賀は自然環境がいいと思います。ただ、生活環境は必ずしもよくはないです。ただ、年々良くなっています。この前の開国祭の花火大会でも、以前に比べて量が3分の1くらいにはなったかと思います。少しずつ横須賀もポイ捨てしないということが身に付いてきていますが、綺麗になったなという実感はまだないです。「クリーンよこすか市民の会」は市民と行政と企業という、市全

体での取り組みですが、まだもう一息も二息も頑張らなければならないのかなと思っています。

- ・ 人間は「綺麗にしよう」「捨てないで」と言っても捨ててしまいますので、何らかの形で規制が必要なのかなと思っています。
- ・ そういった意味で環境への取り組みは生活環境への取り組みが第一歩ではないかと思っています。環境を守るというのが大きなテーマとなるならば、「暮らしの上での環境」を守るということに努力しなければなりません。

(松本副委員長)

- ・ 今のお話を聞いていて、例えば世田谷区などでは重点プロジェクト6「環境へのやさしさ向上プロジェクト」のようなものがあれば、市がお金を出そうというのではなく、まず市民の活動や市民が出来ることは何かという視点があって、市民に活動してもらって効果をあげることがあります。
- ・ そうした視点に乏しいのが、「クリーンよこすか」がなかなか効果をあげられない要因なのかなと思いました。
- ・ 例えば世田谷区で私が関わっているところでは、CO₂の削減をどうやっていくかというところで、例えば横須賀でも資料2の16ページのところで地球温暖化対策の事業をしているようですが、世田谷区は住宅街なので企業にお願いしてもCO₂は減りません。そのため住宅の中でどうCO₂を削減していくかということが話し合われましたが、横須賀でも同じような視点がありそうです。
- ・ また、先ほど住宅開発の中で、住宅を増やすか、自然を残すかという話がありました。もちろんバランスを取っていかなければならないということになるのですが、実際には横須賀は空き家率も高いところで、必ずしも自然があるところを開発して住宅を増やしていくのではないやり方を考えていかななくてはならないというのは基本計画の策定段階で私が関わった中でも話し合われたことです。開発は既にされたけれども使われていないところがたくさんあると思いますので、未利用地を使っていかななくてはならないのだと思います。
- ・ アンケートの結果では自然が魅力の横須賀市となっていますので、それが減ってしまうと、これ以上開発すると市民の満足度も減ってしまうのかなと思います。

(細野委員長)

- ・ ありがとうございます。大切な意見だと思います。他に何かありますか。

(木村委員)

- ・ 前日も申し上げたのですが、資料4の49ページにある「市民のモラルが低い」というのは、これはまさにそのとおりだと思います。横須賀の自然環境が恵まれていて、あぐらをかいているということです。
- ・ 今、町内会活動は盛んなのですが、やはり加入する人は少ないです。私は上町地区に住んでおりますが、当番制でゴミ収集場所のネットを掛けたりするお母さん方がいる中で、町内会に入っていない人がゴミを捨てに来たり、ネットを掛けているにも関わらず、ネットを外しっぱなしにしてしまってカラスがゴミを散らかしてしまうというようなことがあります。
- ・ 近所づきあいが大事であり、家庭内での親の教育が大切だということです。

町内会の活動を活発にして市民のモラルを上げていきたいですね。やはり家の前にタバコを捨てられたら嫌な訳です。小さなところから地域のモラルを上げていかなくてはなりません。

(細野委員長)

- そのとおりですね。その話題はまた重点プログラム5の「地域力を育む」でも出てくるかと思います。

(2) 重点プログラム4 『にぎわいを生むプログラム』

～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

(細野委員長)

- それでは、重点プログラム4「にぎわいを生むプログラム」に移りたいと思います。また検討に入る前に事務局から説明をいただきたいと思います。

(事務局：宮川主査)

一 説明

(細野委員長)

- 佐々木さんはいかがですか。

(石原委員代理)

- 今、説明の中にあった「集客促進実行委員会」ですが、当社と横須賀市、商工会議所がお互いに予算を出し合って、例えばウォーキングなどのイベントを企画したりしています。
- こうした場に参加しているからではないですが、同業他社や他の沿線の自治体に話を聞きますと、横須賀市は当社の沿線の中でも非常にフットワークが軽く、イベントなどに取り組まれています。同業他社からは横須賀市みたいな沿線の自治体があればと言われたりしています。
- 今年は最終年度になりますが、「坂の上の雲」や「龍馬伝」のときはおりょうさんのお墓があったりして、色々な観光資源があります。そうした観光資源や歴史や横須賀中央の異国情緒の溢れるところといったように非常にコンテンツとしては面白いものがたくさんある。
- それがアンケートの結果をみると、なかなか周知されていないとか上手く活用されていないという印象を持ちまして、非常にもったいないなと思っています。当社としても特に沿線外の方たちから来ていただくことは非常にメリットが大きいので、情報発信をしていきたいと思っています。
- 今はホームページもそうですが、ツイッターのような新しいメディアもあります。やはり情報発信としては口コミが非常に強いので、一人でも多く「横須賀に行ったらこんなに面白いことがあった」という人を増やしていくのが重要なかなと思っています。

(細野委員長)

- ・ 横須賀は歴史ドラマの題材はいっぱいありますよね。ペリーや小栗上野介、井上成美もそうですね。そういった横須賀の歴史は小学校や中学校で習ったりするものなのですか。

(小畑委員)

- ・ 小学校の3、4年で地域学習といって、県の歴史を学びます。ただ井上成美提督については地域的には有名ですが他地域の人には若干マイナーな感がありまして、知っている人は非常に少ないです。
- ・ 小栗上野介はどうか分かりませんが、ペリーや中島三郎助と言った幕末関連や製鉄工場、走水の水に関しては小学校の3、4年、或いは6年生のときに勉強します。また咸臨丸がいたのが浦賀の愛宕山ですが、地域にあります咸臨丸やヴェルニーに関連する祭りに関しては地域の小学校で単独で教育題材として扱っています。例えば逸見では三浦按針のことなどですね。

(細野委員長)

- ・ 金沢市などはこうしたものを毎年売り込んでいるようです。NHKの大河ドラマなどに取り入れてもらうのに2、3年かかるようですが、そういうシティセールスはとても大切なことだと思います。小栗や井上のことは知らない人が多いと思いますが、日本の維新後と戦後を位置づけた非常に大事な人ですので、ドラマなどでそうした人を周知するのはとても大事なことだと思います。
- ・ 単にここに観光に来るというだけでなく、歴史教育というのが非常に重要ですね。佐々木さんはどう思われますか。

(石原委員代理)

- ・ おっしゃるとおりで、「坂の上の雲」の効果は大きくて、ちょうど3年に分けて放映されましたので、効果が3年分見込まれて、そのため当社も「坂の上の雲」の電車を走らせたり、色々なPRをして来ました。
- ・ それ以外にも街歩き番組や情報系の番組なども含めて、テレビは非常に瞬発力がありますので、例えばテレビ東京の「アド街ック天国」などは非常に人気があります。そういったところがコンテンツの売り込み先かなと思います。

(小畑委員)

- ・ 日本テレビでやっている「途中下車の旅」は歴史も紹介しますし、横須賀を紹介するのにいいかなと思いますね。

(松本副委員長)

- ・ アンケートの結果を見ますと、集客は増えていても全体としての「にぎわいと活力」というところで見ると。その実感は高くないと読み取れます。東京などから来る人だと日帰りでするのでお金も落ちないと思います。認知度は上がるし、昼間のにぎわいはあるかもしれないけれども、それが果たして市民の方のプラスになっているのか不明な部分があると思いました。
- ・ 新潟県の村上市では春に人形祭り、秋に屏風祭りという祭りを行っています。元は新潟から京都に行った商人が帰りに京都で人形や屏風を持って帰って、商

人が家に置いていたというのがその起こりのようです。祭りと言っても観光客目当てでやっているのではなくて、市民が自分たちの楽しみでやっていたのですが、それにＪＲが目を付けて集客をはじめて話題になりました。

- ・ 一番いいなと思ったのは、市民の人が楽しんでやっているということですね。自分の家に人形を置いて待っているだけです。家に上がると、おばあちゃんがお茶を出してくれて簡単にもてなしてくれるのですが、それをおばあちゃんが楽しみにしている。
- ・ 東京からも日帰りで行けるかもしれませんので、お金は落ちないかもしれませんが。ただ、毎日という訳ではないけど、その期間だけでも祭りに関わりを持つことが、市民の方の楽しみになって、また張りあいになったりする。そういうことが実は「にぎわい」にとって重要なのかなという気がします。
- ・ 市民が「にぎわい」を感じられる。お金が落ちることも重要だし、人が増えることも重要ですが、市民自身が何かと関われることの出来る「にぎわい」の在り方があると思います。観光客とか集客の次のステップとして、そうした視点が必要なのではないかなと思いました。

(細野委員長)

- ・ 本質的ですね。「都市の魅力」とは何なのかということをもう一度議論したいと思います。「にぎわい」とか「住みやすいまち」というのはどうあるべきなのかということです。
- ・ 例えば公園などを仮想的に評価するとします。そうすると大きな公園のそばに住んでいる人は公園を低く評価するんですね。大きな公園では遊びたいけど、自分の家の近くにはいらないと言う訳です。こうしたことが、必ずまちづくりにあります。
- ・ そうすると「都市の魅力」というのは一体何だろうと思います。例えば鎌倉のように、たくさん人が来て、たくさんお金を落とすことがいいのか。色々と考えられる訳です。
- ・ さて、「にぎわい」の話題として雇用の話をしたいのですが、雇用がなくなると若い人が皆出て行ってしまいます。どうすればいいのか、皆さんのお知恵をお借りしたいなと思います。

(永田委員)

- ・ このアンケートに答えているのは横須賀市内の人ですが、実感が低いというのは横須賀に働く場所がないということがマイナスの値に反映しているのかなと思います。
- ・ 逆に集客の面では、自分は横須賀の外れに住んでいまして、横須賀中央には出かけるのですが、頑張っているなど感じます。恐らく人を呼び込むイベントに関しては現在の状況は非常に良好ではないかと思います。
- ・ アンケートで低い値を出しているのは、自分たちの日ごろの生活に関わる部分での実感なのではないかと思います。
- ・ 先ほどの公園の評価の話もありましたが、イベントの中心となっている地域にお住まいの人たちからすると、自分の周囲でイベントやされるのはうるさいのかもしれない。自分はレースをやっていて鈴鹿にも行くことがあるのですが、周囲にいる人たちにとっては騒音でうるさいだろうなと思います。それと

似たように、にぎわっている周辺で暮らしている人の実感がこのアンケートに出たのだと思います。

(松本副委員長)

- ・ 雇用に関して、どういった雇用があれば、若い人が就職するのでしょうか。例えば、横須賀に就職したくてもなかなかないといいますが、どういうものがあればいいと思いますか。

(永田委員)

- ・ 横須賀にあればいいなと思ったのは、例えばN T Tのような通信関係の事業所や、外国の通信関係の企業です。こういった企業が横須賀にあればと思いました。
- ・ 国内の製造業が外国に出て行ってしまうのは止めようがないと思うのですが、日本での通信サービスに魅力を感じて外国から入ってくる企業があれば、就業先としていいと思います。

(細野委員長)

- ・ 資料4の25ページを開いていただけますか。地産地消ショップに登録した数というのがございますが、平成21年度の90店舗から平成22年度は150店舗に増えています。これは6次産業の一つのモデルになり得るのではないですか。

(事務局：宮川主査)

- ・ これは地場産のものを取り扱っている店を増やそうという展開で、登録店舗には昇り旗を掲げてもらうなどして、市でもかなり力を入れている事業です。
- ・ 更に今年に入ってから地産・地消の関連で、「すかなごっそ」という農産物を提供するファーマーズマーケットが出来まして、加工品なども地場産のものをを使うという取り組みが今年度からスタートしております。

(細野委員長)

- ・ そうしたものをアグリツーリズムや観光ボランティアなどと組み合わせていくといいですね。いつも言っているのですが、日本は世界一凄い携帯の部品を作ったけれども、 아이폰を作ることは出来なかった。 아이폰の第一世代はほとんど日本の部品で作ったけれども、今はほとんどが海外の部品で作られている。この体たらくはなんだろうと。
- ・ つまり要素技術は凄くあるのですが、それらを総合する力は全くない。ですので、地産地消とアグリツーリズムはどういう組み合わせにするのか。第6次産業化はどうするかといったことを考えなくてはならない。
- ・ 結局大きな工場を誘致しても逃げられてしまったら大損な訳です。そうではなくて、小さな店をいっぱい作っていく。イタリア型と言ってもいいと思いますが、そういったことを考えて行かなくてはなりません。

(大武委員)

- ・ 横須賀の地政学な位置づけと言っているかもしれませんが、大きな企業がなくなると、この地の零細企業は急速に減少して、労働力も減少していきます。

こうしたことをどう防ぐかということですが、例えば、YRPはあくまで知的生産をしています。モノを作らない分、派生産業が発生しない。

- では工業団地はどうかというと追浜の方は段々地盤沈下している。久里浜のテクノパークや古い久里浜の工業団地も少しずつ落ちている。そうしたことから全体として、雇用を増やす力がない。
- 2年前にハローワークの高等学校関係部の就職相談があったのですが、高等学校を卒業して就職したいという人が500人を超えていました。それに対して参加企業が20数社あったのですが、採用予定人数が20人前後しかない。しかもそれも横須賀の中で働けるといところだけではありません。
- この地にどうやって仕事を作るかですが、一つは中高年の再雇用という話がありますが、そうではなくて、本当に若い人に定職に就いてもらう。そうすれば、若い人の活力が生まれるのではないかなと思います。横須賀は結構若い人の就労率が悪いですよ。
- 佐原に新しい食材加工の工場を誘致したと聞いております。しかし、こういった工場は常勤の人が非常に少なく、ほとんど非常勤・アルバイトだと思います。そんな中でどうすれば、若い人の正規雇用の場を作っていけるかが重要だと思います。

(細野委員長)

- 昔はリストラされると、逆に発奮して自分の持っている技術を基に中小企業を作って、頑張っている内に海外での取引先も増えていたというサクセスストーリーがたくさんありましたが、今は日本全体が元気なくなってしまうと、そういう機会が少なくなると、金融機関もそういうチャレンジをさせなくなっているんじゃないかな。
- そういうベンチャーの創業支援も市の施策としてあるのでしょうか。

(事務局：宮川主査)

- 創業支援の事業はございますが、なかなか案件が出にくい状況のようです。

(大武委員)

- 資料3の55ページを見ますと、20代、30代の若い人の実感は悪くなくて、それ以外の人の実感がよくないという状況になっていますが、これは一体どうしてでしょうか。

(松本副委員長)

- きっと若い人は集客という面で人がにぎわっている様子を見て実感がよくなっているけれども、昼間横須賀市内を出歩いていなくて外に働きに出ていて、昼間の横須賀を知らないのか、こうなっているのかなと思います。

(細野委員長)

- ポップスでは横須賀が取り上げられるじゃないですか。横須賀でアクターズクールみたいなものの誘致は出来ないのですかね。

(森川委員)

- ・ モアーズの中にダンススクールがありまして、私の周りの高校生ではそこに通ってダンスを習って、将来的にはそういった働き方を目指している人がいます。

(細野委員長)

- ・ やはり他にやっていないことをやらなくてははいけませんよね。少し発想を転換させないといけません。

(森川委員)

- ・ 今年出版された横須賀ウォーカーを買ったのですが、そこでプロ野球選手とサッカー選手の対談がありまして、生まれ育った横須賀はこんないいところだという話、基盤が横須賀にあるという話でした。追浜にも横浜・F・マリノスのジュニアユースの練習場があって、可能性としてはそういった芽はあるのですが、それを市として地域としてどうサポートするのかということだと思います。

(細野委員長)

- ・ それはいいですね。なでしこジャパンのときもそれで調布が東京にあるんだということで有名になった訳ですから。PR効果がありますね。

(松本副委員長)

- ・ 重点プログラム4の作成に関わった際に、農協や漁協の方がいらして、雇用に関して、後継者がいないということを言われていました。雇用がない一方、後継者いないというところもあるんですね。
- ・ また、そのときに「鎌倉野菜」の話が出ました。「鎌倉野菜」というのは種類ではなくて、ブランドの名前なのですが、「横須賀野菜」とか「横須賀菜っ葉」というブランドを作ればいいのかと言いました。鎌倉で出来るなら横須賀でも出来ない訳がないですからね。
- ・ ファーマーズマーケットも作っても、農協の中だけで行われるのではなく、もう少し組み合わせなりを考えて行かなくてはならないですね。上手に雇用を生み出すような生産体制を作っていく必要があると思います。

(川名委員)

- ・ 先ほど細野委員長が、ベンチャーがなかなか育たないという話をされていましたが、アメリカの場合はローヤーやドクターよりも社長になることは素晴らしいものとされていて、自分がある程度成功したら次はベンチャーとなっています。
- ・ 今、青年会議所の方が仕事の授業を出前でしていますが、そういった中でベンチャーの素晴らしさを熱っぽく語ってもらえなと思います。
- ・ 横須賀市も一生懸命、YRPの企業誘致をしていると思いますが、業種を特化した誘致を行っていると思います。その路線はとても素晴らしいと思っていて、あそこを「第2のシリコンバレー」と銘打てば、たくさんそのような企業

が来ると思うんですね。というのも、私たちが思っている以上にY R Pにある企業の技術は素晴らしいようです。

- ・ 昨年たまたま国際交流協会のボランティアでアジアの若手の経営者がくる国際会議のアテンドをさせていただいて、都内からY R Pまでご案内させていただきました。それぞれの方が若手の有望な経営者なのですが、そうした方たちが口ぐちにY R Pの企業の技術に対して「この技術は素晴らしい」などと誉めるのですね。Y R Pの技術が海外の経営者のような方々にも通用するものだという事を知りませんでした。そうしたことを子どもたちにもっと知ってもらいたいですね。
- ・ モトローラとかノキアと言った海外の有名な企業がありますが、そうした企業が選んで来てくださるということは周辺技術が素晴らしいということだと思います。そういうことを子どもたちに知ってもらい、それを誇りにしてもらって、そこから世界を見るように育ってもらいたいなと思います。

(細野委員長)

- ・ 多摩のあたりに優秀な中小企業がたくさんあるんですが、何をしているかというと、研究開発型の企業の試作品作りです。ロットは小さいですが、非常に高価なものを作っているんですね。そうしたことを若い人に知ってもらって、こういうことをやろうかと思ってもらいたいですね。

(永田委員)

- ・ 先ほど、要素技術はあるけれども総合力はないという話がありましたが、例えば電気自動車なども、これを利用したスマートグリッドなどはトヨタに持って行かれそうな気がしています。
- ・ せっかく横須賀市で生まれたものなので、総合力を付けるというところまで、その地で出来ればと思いました。モノを作ってそれで終わりにしてしまうから、それを真似されて、新しいサービスやそれ以降の展開を奪われてしまうのだと思います。 아이폰もせっかく素晴らしい部品を作っても結局はコピーされて台湾などに取られてしまいました。
- ・ やはり少なくとも日本の中や、製品が生まれたところで、発展するところまでお世話出来れば、少しずつ日本の企業や製品に総合力がついていくと思います。
- ・ 是非、モノを作り出すところの支援だけではなくて、その後どういった発展を遂げていくのかという支援までこれから先できればと思います。付加価値の高いものを作る訳ですから、付加価値の高いもの発展というのもまた付加価値が高いものになりますので、是非そういったことを考えていければと思います。

(細野委員長)

- ・ 産学連携は重要なことだと思います。例えばピッツバーグは昔鉄の町で、鉄鋼産業は日本に競争で敗れて駄目になってしまいましたが、ピッツバーグ大学が医学部を招致して再生しました。また、ジョブスのアップルのテクノロジーはカーネギー・メロン大学などと産官学の連携で取り組んで成功しました。
- ・ 横須賀でも近くに横浜市大がありますし、慶應のS F Cがありますね。それにN T Tの研究所があるわけですから、そうしたところと組んで色々なことで

出来ると思います。

- ・ そういうことをやると若い人が興味を持って来ます。若い人は新しいことをやらなければ来ないですよ。「にぎわい」というのはそういうことにもあると思いますね。ある年代の層をたくさん集めて新しい動きを出す、活力を生み出すというのとも考えなくてはなりませんね。

(大武委員)

- ・ 農業や漁業の話に戻りますが、横須賀は漁業が盛んで漁獲量が多いですが、事業者が漁港のようなところに散在しています。ある程度、大きな設備に関しては集約するなどして、継続的に漁業が展開できるように農業と同じように、「海の幸」というような形で漁業にも政策的に投資して行かなくてはならないと思います。
- ・ 商店街にしても、商店街の活性化ということは30年以上も前から言われて来ましたが、成功した例はほとんどありません。最近、コンビニや、大型のマーケットが消費者の消費を吸収している気がします。そうしたところの利益は本部に行ってしまうので、横須賀には落ちません。
- ・ 「すかなごっそ」というものが出来たようですが、横須賀市外の人がどれだけ来ているのかということが問題です。「にぎわい」を生むということの旗印は何だろうか考えると、「点」を「線」にしていかななくてはなりません。
- ・ 芸術劇場にしても、せっかくいい公演があっても、駐車場が少なくて空いていなかったりしますし、観音崎にしても多くの人がバーベキューで訪れます。せっかく美術館や博物館があるのにそれではもったいないと思います。
- ・ 新港埠頭の再開発も統合的な地域づくりにしていかななくてはなりません。三笠公園にしても、地域の中心的な観光案内のようなものを作り、京急と連携していかななくてはならないと思います。

(石原委員代理)

- ・ 美術館に関しては、震災以降利用が少なく、しかも近くに温浴施設が新しく出来て厳しいという話を伺っています。ただファンは多くて、遠くから来られる人も多いようです。
- ・ 色々な話を伺いましたが、何を目指しているかが分かりにくいと感じました。当社の沿線の都市は、ほとんどが都心に働きに出る方のベッドタウンなのだろうと思います。こういった方々は、通える範囲で都心へ通勤しながら、子どもが育って行って、時に子どもが市外に出て行って、また戻ってくる子どももいるという、そういうサイクルを持った都市だと思います。
- ・ 利便性と言う意味では、横須賀は少し遠いというイメージがありますが、一方で魅力的な自然があるという強みがあります。そんな中で、横須賀の地元の雇用といいますと、第一次産業、第二次産業色々ありますが、それぞれやっていかななくてはならないと思います。
- ・ 一方で観光でも雇用を産まなければならないと思うのですが、三浦半島は近くて、温泉などもないので泊りにくるところではないというイメージがあって、お金は落ちにくいと思います。
- ・ ただ、いずれは海外から来られた方が大阪などから東京へ戻ってきた際に、帰国するまでの余った時間を横須賀で過ごしてもらおうということが出来ればと

考えております。

- ・ 韓国の方で、日本へよく旅行に来るという方は新宿や銀座よりも、下北沢や代官山に行くという話を聞いています。そういう意味で、いずれは海外の方に對してそういったPRの仕方はあるのかなとは思っています。

(西原委員)

- ・ 京急は観音崎にホテルを持っていますが、もっと大きなホテルに改装してもらうか、或いは別のホテルがもう一つあればいいと思うんですよ。横須賀は見所がいっぱいあるのだから、少なくとも一泊して行って欲しい。
- ・ 交通の便利なところはあまり見所のないところでも、たくさん人が来る。団体旅行が呼べるからです。団体旅行が呼べないところが横須賀の観光が発展しない理由なんです。
- ・ 「軍港巡り」は大変に成功しましたがけれども、観光で来る人たちはそれだけで帰ってしまいます。「軍港巡り」の運営をしているトライアングルは観音崎まで航路を延長していますが、もう一つ延長して、大津で途中の港を作って久里浜まで延伸しようということも検討しています。そうすると色々なところに人が呼べます。横須賀は海があり緑がある半島で、軍港もあるという特殊な事情もあり、色々な観光資源があります。宿泊施設がなくて日帰りで帰ってしまう人ばかりなのは大変にもったいないです。
- ・ またこれは夢なのですが、アメリカから廃船になった航空母艦を買い取ってホテルにしようという計画がありまして、そこで寝泊まりしようという計画なんです。企画書もある程度出ています。航空母艦は実はそれほど高くはないです。「横須賀・三浦半島を元気にするプロジェクト」を一年半程度前に立ちあげていまして、そこでも毎月こういった話をしています。夢みたいな話ですが、集客にあたっては思い切ったことをしなくてはならないと思っています。

(川名委員)

- ・ 今の宿泊の話なのですが、ホームステイというアイデアはあるのではないかと思います。たまたま私の友人が横浜市大の大学院生で、埼玉から横須賀へと移り住んでいるのですが、横須賀に住んだ理由がカウチサーフィン（CouchSurfing：海外旅行者を無償で宿泊させるなどのホストを行う人々のインターネット上のコミュニティ）で、部屋をシェアしてくれる人がいるというので住み始めたと言っていました。
- ・ 外国人はインターネットを使って無料で、或いは安く宿泊出来るといった情報に非常に敏感で、もし横須賀で近郊の方々をホームステイさせてくれるということをするなら、ネットで広報をするのがいいと思います。

(石原委員代理)

- ・ ホームステイは凄くいいアイデアだと思います。ホームステイを支援している団体がありまして、企業の使っていない独身寮などを提供してもらって、そこに留学生などが宿泊するということをしています。
- ・ 企業にとっても国際交流になりますのでいい話ではあるのですが、最近は独身寮自体が右肩下がりに減っております。そのため、検討したことはあるのですが、実現にいたらなかったということがありました。

- ただ、これから国際化していく中で、一度住んだところは本土に戻っても、地の利がありますので、日本に戻ってきたときにはまたそこに行きます。そういった意味でも一度住んでもらうというのは大切なことだと思います。外国人ということで文化は違いますが、留学するような方だとしっかりした方が多く、トラブルも起きにくいと思います。

(松本副委員長)

- ホームステイの話とも関連するのですが、全国どこも空き家率が高く、どこでも住宅の政策で空き家の活用ということをしています。空き家や空き室を借りたい人と貸したい人とのカップリングすることが必要だと思います。
- また、今さっきシェアの話もありましたが、一戸建てを何人かで借りてシェアするというのは日本では少ないのですが、外国ではかなり一般的に行われています。横須賀でも一戸建てで空いている家をシェアという形で貸し出すことをカップリングすることも考えられます。

(事務局：宮川主査)

- 本市の都市部で空き家対策の一環として、横須賀には県立大学がありますので、学生のシェアルームをするということを検討しています。また、定住との関連では、現在の制度を見直して、若年層に特化した定住促進ということを検討しているところです。

(松本副委員長)

- どれくらいの費用でどれくらいの人が来たのか、効果を見るのは難しいですね。
- 今回の震災で被災された人を受け入れようと思って、シェアということを考えてのですが、アイデアは単純なのですが、現実にやってみると難しいということを経験しました。
- 定住といったときに、ただ家があって、帰る場所があるというだけでなく、周りにどういった人が住んでいるといった環境面が重要なのかなと思います。

(細野委員長)

- 多摩平でUR賃貸が多世代の共生として、日本人の学生と外国人の留学生で、シェアハウスをしていますので参考になるかもしれません。
- 次回は「地域力を育むプログラム」ですが、これは非常に重要でありまして、重点プログラムの1～4までが全て掛かってきていると言っていいと思います。
- また次回は最後の委員会になりますので「持続可能な発展を遂げる都市力」「都市の魅力」について、委員会としての意見を取りまとめたと思っております。
- そこであえて申し上げますと、「戦略的な視点」と「実行力の高い提案」を求めています。「戦略的な視点」というのは「あえてコストをかけてもやるべきこと」と「コストをかけなくてもできること」との区分けをして、戦略的な視点でご意見をいただくということです。
- それでは時間となりましたので、これで閉会にしたいと思います。

(閉会) 15 : 30

- ・ 第3回まちづくり評価委員会の開催日時・場所を確認して閉会とした。

以上